

第三セクター等経営健全化方針

1. 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和2年3月27日

作成担当部署 吉賀町企画課

2. 第三セクター等の概要

法人名 株式会社エポックかきのきむら

代表者名 代表取締役社長 河野克則

所在地 島根県鹿足郡吉賀町柿木村柿木500-1

設立年月日 平成5年9月14日

資本金 16,200千円【吉賀町の出資額（出資割合）8,500千円（52.5%）】

業務内容

1. きのご用菌床の生産販売
2. きのご、有機農産物、その他農林畜産物及び淡水魚の生産、集出荷、販売
3. きのご、有機農産物、その他農林畜産物及び淡水魚の加工、開発、販売
4. 堆肥の製造、販売
5. 軽飲食、喫茶店の経営
6. 木製品、竹細工、陶磁器等の加工、開発、販売
7. 温泉施設の経営
8. 清涼飲料水、嗜好飲料、果汁飲料、酒類の販売
9. 農林業生産物の栽培、研究、開発及び技術指導
10. 建築物、公園、道路、諸施設等並びにそれらに付帯する施設の保全管理及び清掃に関する受託、委託事業
11. 農業、林業、土木、建築業等の作業の受託及び委託に関する事業
12. 産業廃棄物の収集及び運搬並びに産業廃棄物の処分に関する事業
13. 前各号に付帯関連する一切の事業

3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社エポックかきのきむら（以下「エポック」という。）は、椎茸菌床の製造販売を始め、椎茸の集出荷、道の駅等における産直販売事業を中心としながら多方

面での事業展開を行い、地域雇用の創出と、農林業をはじめとする地域産業の振興、生産意欲の向上等に寄与してきました。

エポックの損益計算書を見ると平成23年度までの数年間は黒字経営が続いていましたが、平成24年度に435万円の赤字、25年度に294万円の赤字に転じました。この業績悪化を解消するため平成26年11月に5年間の経営改善計画書を策定し改善に取り組んできました。

この取り組みにより、平成26年度は42万円の赤字、平成27年度は2万円の赤字と損益の状況は徐々に改善し、平成28年度には19万円の黒字に転じました。しかしながら、平成29年度については、経費の増加や直営店をはじめとする各部門の営業利益減少により825万円の赤字となり急激に損益の状況が悪化しています。平成30年度も売上の減少等さらに悪化が進み、1,416万円の赤字となり、純資産が△1,164万円となり債務超過に陥っています。

このため、経営改善計画の見直しが必要となり、平成31年1月に抜本的な事業の見直しを含めた事業再生計画を策定し、経営の立て直しを目指しています。

一方、資金面については、平成27年2月に、当面の資金不足による経営危機回避のため、町から1,200万円（償還期限2年満期一括償還）の貸付を行い、平成29年2月に償還されています。しかしながら、その後も収支改善が進まず資金に余裕が生じていないことから、金融機関等からの長期貸付金の増額を行ってきています。

吉賀町（以下「町」という）では、平成26年の経営改善計画書の策定以前から、町と公益財団法人しまね産業振興財団により月次の定期的な協議の場を持ち継続的に経営状況を確認し、経営改善に向けた指導・助言を行ってきました。また、助言により各種制度を活用した研修の実施や、補助金による経営診断・改善計画策定支援、貸付金による資金調達等の支援も行ってきました。

なお、現時点で町は債務の損失補償、短期・長期貸付及び長等の私人としての債務保証は行っていません。

4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組みに係る検討

エポックが行う事業は、町の施設の指定管理を行いながら町の特産品としての椎茸の産地形成や生産者支援等を行う点で公共性、公益性の高い事業ではありますが、

一方で独立した事業主体とし、自らの判断と責任に基づき、施設を有効に活用し、椎茸菌床の生産拡大や販売活動により採算のとれる経営を行うことが原則です。

現在、町内における菌床椎茸栽培の主流は 1.3 kg 菌床となっています。現在、1.3 kg 菌床を生産できる施設は、西日本ではエポックの管理する施設のみとなっています。このため、エポックの菌床生産は栽培農家の経営に大きく影響しており、椎茸産地形成において重要な役割を担っています。一方で、全国的な菌床栽培の主流は 2.5 kg 菌床となっており、1.3 kg 菌床需要の総量は減少傾向となっています。このため、収益確保に向けては 2.5 kg 菌床の生産体制の検討も必要となってきました。

このような状況を受け、事業再生計画によりエポックの事業内容を大幅に見直し、菌床椎茸事業を柱とした経営に転換することとしています。しかしながら、事業再生計画は町による施設更新の実施が前提となっており、この更新が実現できるよう事業再生計画に沿った収支の改善と地域内の菌床椎茸生産者や栽培玉数の増加対策を進めることが重要となってきました。

5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

町では、財政状況や改善の取り組み状況を検証するため、引き続きしまね産業振興財団等の機関と協力しながら継続した定期協議の場を持ち、点検と指導・助言を行っていきます。また、エポックの自社努力だけでは解消できない課題について、経営再生の進捗を確認しながら、状況に応じて公的支援による危機回避を行うことを検討します。

公的支援の内容については、費用対効果や合理性も含めた検討を行い対応します。

(参考)

6. 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額（千円）		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
	資産総額	93,500	87,603	80,692
	内 現預金	47,186	32,100	35,455
	内 売上債権	6,189	10,408	6,654
	内 棚卸資産	33,836	30,120	25,044
	負債総額	82,736	85,088	92,337
	内 当該地方公共団体からの借入金	0	0	0
	純資産額	10,764	2,515	△11,644
	内 累積欠損金	△5,436	△13,685	△27,844

損益計算書から	項目	金額（千円）		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
	売上高	216,595	206,062	177,645
	売上原価	132,540	126,783	110,806
	売上総利益	84,055	79,280	66,839
	販売費及び一般管理費	84,035	88,411	83,556
	営業利益	21	△9,132	△16,716
	営業外損益	△6	691	76
	経常損益	15	△8,440	△16,641
	特別損益	539	556	2,846
	割引前当期純損益	553	△7,884	△13,794
	法人税、住民税及び事業税	365	365	365
	当期純損益	189	△8,249	△14,159